

### 新型コロナと肺がん検診

川口市立医療センター

呼吸器外科

いしもと

石本

しんいちろう

真一郎



新型コロナウイルス感染症が拡大する裏で、がん検診の受診率低下が問題となっています。2020年4月の緊急事態宣言発令後は、医療機関で一時的に検診センターの閉鎖が相次ぎました。感染することを恐れて病院に足を運ばなくなったかたもいるため、検診を希望するかたの数も激減しました。また、肺がん検診では検診後、確定診断の前や治療計画を立てる際に「気管支鏡検査」を行う医療機関も少なくありません。気管支鏡検査は気管の中に小型カメラを入れて内部を観察する検査なので、医療従事者が患者さんからの飛沫を浴びやすく、新型コロナウイルス感染症の感染リスクが高い検査といえます。そのため、通常なら行われるはずの気管支鏡検査が中止された病院もあり、さらに肺がんが発見されにくい状態が続きました。その結果、検査するとかなり進行してしまっただけで肺がんが見つかるようにもなりました。このように、検診の受診率低下や検査数の低下は確実に影響が出てきています。

私たちの医療機関では、感染対策を綿密に行った上で、感染を広げないよう細心の注意を払いながら日々の診療に当たっています。特に手術に関しても感染対策に十分に配慮し行っています。「この1年受けるべき検診に行かなかった」、「体の不調があるのに我慢して病院に行かなかった」というかたは、ぜひ一度病院を受診していただきたいと思います。